

Close-up Interview (9月号 表紙の顔)

名前の由来は
タカラジェンヌ

—福岡県北九州市生まれの栃木県矢板市育ちだそうですね。

渡辺 はい。父は歯科医で、九州歯科大の大学院在学中に、看護師だった母と結婚して私が生まれました。

—矢板はお父様の生まれ故郷なのですか？

渡辺 いえ、父の実家は埼玉で、栃木で開業する前に地元で勤務医をしていた時期が1年半あるそうです。私はまだ小さかったのですが、当時の記憶がまったくなくてよ(苦笑)。

—子どものころはクラシックバレエをやっていたとか。

渡辺 はい。3歳のときに習い始めて、中学1年までやっていました。当時はタカラジェンヌになるのが夢でしたね(笑)。

—お母様が宝塚ファンだったとか？

渡辺 母ではなく父方の家族にファンが多くて、「けあき」という私の名前も、男役のトップスターだった杜けあきさんの退団が決まった年に生まれたことが由来だそうです(笑)。

—ちなみに「はじめてのボウリング」は？

渡辺 たしか小学校5年生のときに、家族で投げに行ったのが最初だったと思います。両親がボウリング好きで、父はマイボールも持っていました。当時、行きつけのセンターで累計30ゲームを投げるとマイボールをもらえるというキャンペーンがあって、6年生のときにゲットしたんです。それから自分もハマっていきました。

—最初のコアは？

渡辺 はっきり覚えていませんが、たぶん60点か70点くらい。上達するのも遅かったですね。マイボールを持って半年ぐらいいろいってJBCに入って投げましたが、目立った成績は残せていません(苦笑)。

—中学時代にはDHC認定ジュニアボウラーとして活動していました。

渡辺 やってましたね(笑)。中1のとき、DHCのプロアマオープンに毎回アマチュアの予選会から参加していて、何回かできるよう予選を通過して本大会に出たとき、たまたま最年少だったので「面白いからやらせてみよう」となったみたいで。でも、それがきっかけでバレエを辞めて、ボウリングに専念することにしました。

—テレビドラマやCMにも出演していましたよね。

渡辺 はい。芸能の仕事は、小学校2年のときにスカウトされ

たのがきっかけで、プロテストを受けると決めた高校2年までやっていました。演技をすることは好きでしたが、本格的にボウリングと取り組まなければ合格はできないと周囲の人にいわれたし、自分でもそう思ったので。何せ、プロテスト1年前のセンターアベレージは170でしたから(苦笑)。

—合格したのは2012年、大学2年のときでした。

渡辺 はい。1年目は2次で落ちて、1次免除の2年目に合格しました。

—で、その年の秋にはミス日本の東日本代表にもなった。

渡辺 はい。プロボウラー兼ミス日本兼大学生でした(笑)。



▲来年度からのルール改正に備え、1年前からリストタイを外してフォーム改造に取り組んできた

米国修行で
目からウロコ

—あれから8年目。7月の東海オープンで、ついに悲願の初優勝を果たしました。

渡辺 去年まで順位戦でヒーヒーしていたので、優勝した瞬間は「これで順位戦に行かなくていいんだ！」と(笑)。

—現在ポイントランキングは16位です。

渡辺 優勝した翌年は無条件で第1シードになるのですが、残り試合も多いので、しっかりポイントを稼いで堂々とシード枠に入りたいですね。

—タイトルホルダーになって気持ちは変わりましたか？

渡辺 まだちょっと実感がわいてなくて(苦笑)。ただ、周囲の人に祝福されて、「おめでとう」といってもらうたびにうれしい気持ちになります。これまでボウリングをやってきて、たぶん今がいちばん幸せな時なのかな、と(笑)。

—渡辺プロより先に、霜出佳奈(50期)、坂本かや(49期)、久保田彩花(48期)といった後輩の若いプロが次々と優勝していきました。

渡辺 すごくですよ(苦笑)。彼女たちがプロになったころ、自分は4年目、5年目でもっと

渡辺けあき
(JPBA45期)

「ヘタクソでも頑張って練習して努力したら、たまには天才に勝つこともあるんだ、と(笑)」

前号既報のとおり、7月の東海オープンで念願の初優勝を飾り、デビュー8年目にしてタイトルホルダー仲間入りを果たした渡辺けあきプロ。日本女子大在学中にプロテストを突破し、元ミス日本東日本代表という華やかなキャリアも相まって、デビュー当初から期待されていたが、思いのほか伸び悩み、後輩の若手プロが続々と台頭していく陰で、人知れず悩み苦しんだ時期もあったようだ。

成績を挙げていなきゃいけないのにさっぱり振るわなくて…。2年前には予選最下位なんてこともありました。イップスになって手が出ない、足が出ない、投げられない。順位戦は146位で、ほとんど試合にも出られませんでした。それでも諦めずに地道にやってきて、ヘタクソでも頑張って練習して努力したら、たまには天才に勝つこともあるんだ、と(笑)。

—アメリカに行って、ボウリングの改造に取り組んだと聞きました。

渡辺 はい。去年と今年の2回、同郷の小林よしみプロ(43期)に誘われて、ケーゲルのトレーニングツアーに行ってきました。じつは初めて行くことになった直前に、「2020年からリストタイ禁止」という知らせがあったんです。今のままでは成績も頭打ちだし、順応するためにリストタイはすぐに外して、このタイミングでイチから自分のボウリングを組み立て直そうと考えていた矢先のアメリカ行きの誘いで、小さいころから友だちのよしみプロに助けられました(笑)。

—収穫は大きかった？

渡辺 ボウリング歴が長いわりに分かっていなかったことがたくさんあって、目からウロコの毎日でした(苦笑)。1週間、朝から晩までみっちり投げて、それを現地のゴールドコーチがムービーで撮って課題を指摘してくれるんです。あとで解説付きの動画をメールで見えることもできるんですよ。練習メニューも作ってくれて、帰国後の自主練でも活用しています。

—ケーゲル行きは毎年の恒例になりそうですね。

渡辺 はい。ツアーを企画してくれているのはロバート・リープロ(38期)なのですが、「来年も行きたい」とお願いしてあります(笑)。

—お話を聞いていると、東海オープンの優勝はうれしい誤算というか、1年早く結果が出た感じがどうですか。

渡辺 そうですね。正直、こんなに早く結果が出るとは思っていませんでした。リストタイを外してからアベレージも上がったし、投球フォームも安定してきたと思いますが、今回の優勝は運の要素も大きかったですし、今取り組んでいることをやめてしまったら、今後勝つことはできないと思います。本当に強いプロが大勢いますから。

—まだ道半ばだと。

渡辺 はい。優勝はしたけれど、これはたぶん神様がこれまで頑張ってきたことへのご褒美としてくれたものだと思うので(笑)。自分の理想とするボウリングの完成に向かって、まだまだ勉強していきたいです。

—ところで、渡辺プロは3年前に声優オーディションでグランプリを受賞して、現在の所属先も声優のプロダクションになっています。そちらの仕事もされているのですか？

渡辺 たまにアニメやゲームソフトの仕事をしています。声優としてもまだ新人のペーペーで修行中の身なので、AとかBという名前のない端役ばかりですが(苦笑)、将来的には大きな役をもらって、より高いステージ

でボウリングと両立していきたいですね。そうすれば面白い存在のプロボウラーになれると思うし、今のところは自分にしかできないことですから(笑)。(取材&撮影協力：品川プリンスホテルボウリングセンター)

渡辺プロと一緒に投げよう！
近日開催のチャレンジマッチ

- 9月15日
広島・コロナキャットボウル福山店
- 9月16日
埼玉・浦和スプリングレーンズ
- 9月21日
高知・ラウンドワン高知店
- 9月22日
香川・マックスボウル
- 9月23日
徳島・ポップジョイ石井店
- 9月27日
愛知・コロナキャットボウル安城店
- 9月28日
愛知・コロナキャットボウル半田店
- 9月29日
岐阜・コロナキャットボウル大垣店
- 9月30日
東京・ビームボウル昭島
- 10月5日
埼玉・ジョイナスボウル
- 10月10日
福岡・飯塚第一ボウル



わたなべ・けあき/1992年8月28日、福岡県生まれの栃木県育ち。日本女子大卒。165cm、右投げ。血液型O。2012年プロ入り(45期/ライセンスNo.488)。81プロデュース所属。優勝1回(19年東海オープン)。今年度ポイントランキング16位(8月31日現在)。